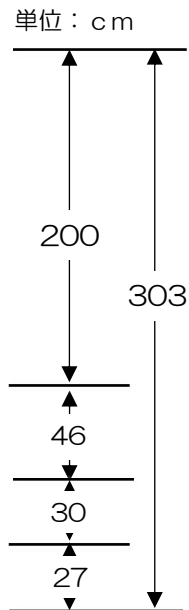
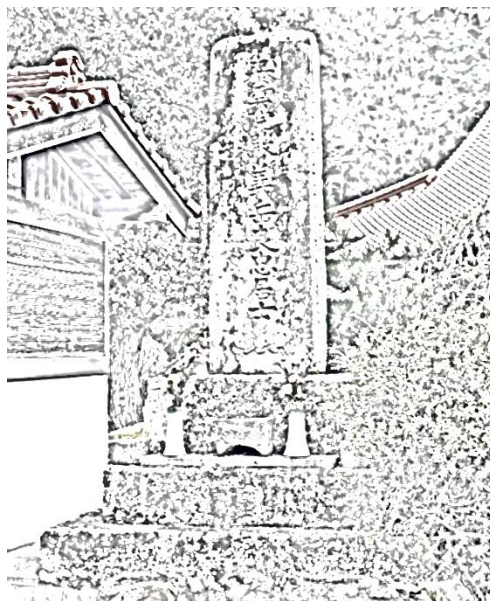


【67】大田市温泉津町湯里 専念寺 (宮本 温 01/0-列-74) 泰雲院殿義岳良忠居士

所在地 大田市温泉津町湯里温泉郷下 鉄道高架下 専念寺の道路脇
 北緯35° 06' 32.68" / 東経132° 22' 33.71"



碑石最大幅 61.5 / 奥行き最大 36
 台石1段目幅 110 / 奥行き 108.5
 台石2段目幅 148 / 奥行き 141
 台石3段目幅 199 / 奥行き 164

〔調査の経過〕
 国道9号から湯里に入り、鉄道の高架をくぐって湯湊方面に向かうとすぐ右手にあるのが専念寺。道路沿いに地藏堂と並んで立っている。碑銘は道路側に彫っており、大きな碑で、約50^{センチ}の高さに建てられていることもあって、見上げるほど大きい。比較的軟らかそうな石だが、傷みは少ない。碑の前の花立てには花が供えてあった。

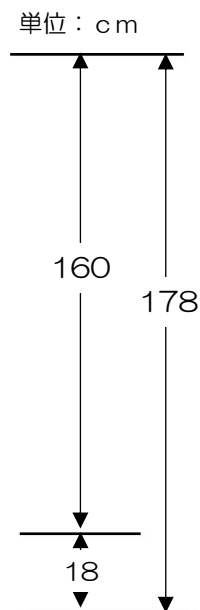
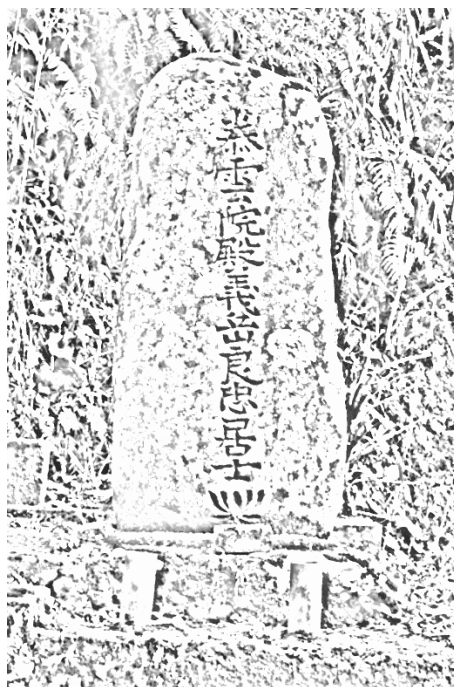
〔建立年〕天保11年(1840)
 〔建立者〕本郷 / 温泉郷下組 / 湯湊
 〔碑石前面〕泰雲院殿義岳良忠居士(蓮の花)
 〔碑石右面〕享保癸丑之夏五月二十六日卒 / 故明府井戸平左衛門正明君祀尊碑
 〔碑石左面〕維皆天保庚子初夏謹建焉
 〔一段目台石前面〕右から「本郷 / 温泉郷下組 / 湯湊」
 〔同左右面〕世話人の名が数人彫ってあると思われるが読めない
 〔二・三段目台石〕なし。

(調査日2019年1月17日)



【68】大田市温泉津町湯里中村（宮本 温 04/㊦-㊦-73） 泰雲院殿義岳良忠居士

所在地 大田市温泉津町湯里村 県道沿い（豊田屋の下）
 北緯 35° 05' 48.25" / 東経 132° 22' 44.91"

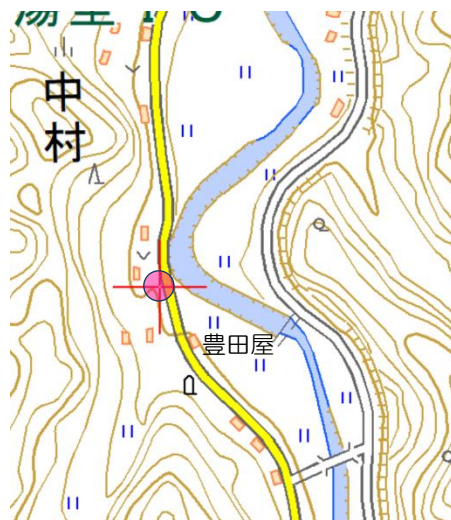
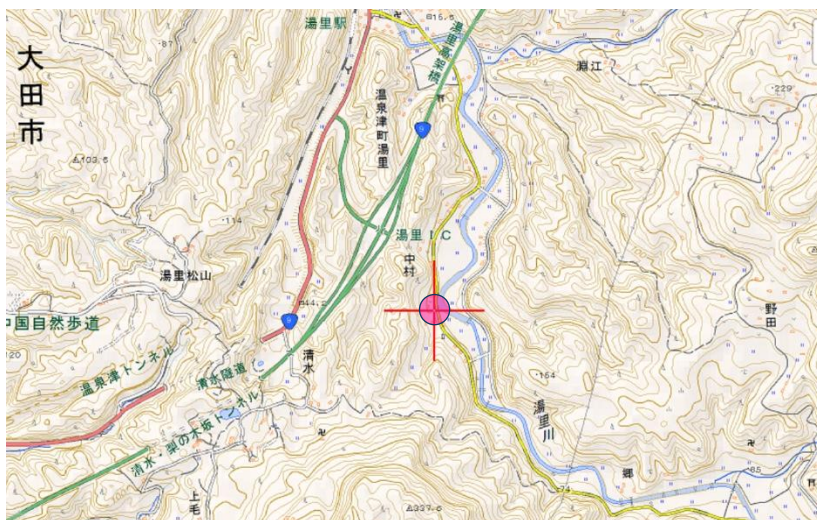


碑石最大幅 77 / 奥行き最大 60
 台石幅 106 / 奥行き最大 105

【調査の経過】
 県道沿いにほかの2基の石碑と並んで建つ。建立年が石碑に彫つてあるものとしては大田市で最古（波根町の碑は別文書に1820年とある）。比較的堅い自然石だが、碑石左右面の小さな文字は浅くなつていて読みにくい。「泰雲院殿義岳良忠居士」（「殿」があつて「大」がない）の文字と、文字の下に蓮の花を配した図案が野田、専念寺の碑と共通しており、後から建てられたと思われる2基は中村の碑を踏襲したと思われる。

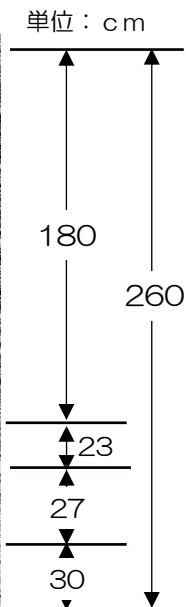
（調査日 2019年1月12日）

【建立年】文政11年（1828）
 【建立者】温泉本郷上組
 【碑石前面】泰雲院殿義岳良忠居士（蓮の花）
 【碑石右面】享保十八癸丑五月廿六日 / 前御代官井戸平左衛門□□ / 調立主温泉本郷上組 / 世話人周平エ / 好藏
 【碑石左面】皆文政十一戊子五月謹立 / 村役人 林義助 / 山根周助 / 同苗勇藏 / 安田豊平エ（碑文の一部は「ふるさとアルバム」（平成8年山本隆慶著）による）
 【台石】なし



【69】大田市温泉津町湯里野田（宮本 温 02/ロータリー75） 泰雲院殿義岳良忠居士

所在地 大田市温泉津町湯里野田 埤田氏宅前の山道を約200メートル上がった新谷家の墓地
北緯35° 05' 56.88" / 東経132° 23' 37.44"



碑石最大幅 62 / 奥行き最大 36
台石1段目幅 94.5 / 奥行き 93
台石2段目幅 130 / 奥行き 130
台石3段目幅 185 / 奥行き 188

【建立年】不明
【建立者】野田組中

「碑石前面」泰雲院殿義岳良忠居士（蓮の花）／右に「享保十八癸丑五月廿六日 野田」左に「井戸平左衛門尉諱正明 組中」

「碑石左右面」なし

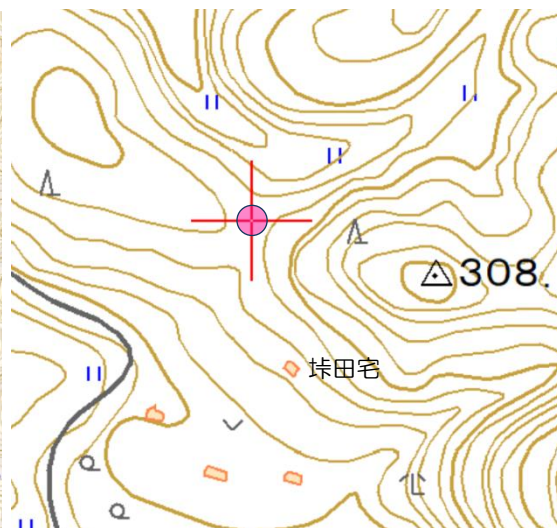
「一段目台石前左右面」（「ふるさとアルバム」より）当時庄屋坂根一平／当時頭百姓曰井仁五右エ門／当時百姓代帯刀又十郎／世話方宮原祐右エ門／同山田千代太郎／山田吉子平エ／山本佐平／足利吉左エ門／福光石工忠四／竹作／野田石工藤十郎／同保国／難波松太郎／新右エ門

「二・三段目台石」なし。

〔調査の経過〕
比較的軟らかそうな石だが、傷みは少ない。昔住還であり、願成寺と馬路に至る三差路の手前の左側に開けた墓地。山側にほかの石碑群とともに約50枚の石組みの上に建っている。専念寺の石碑同様、大きな石碑だ。

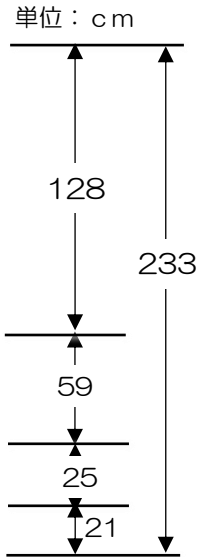
合わせて11基の石碑と1基の灯籠があり、石碑は「帯刀常助之碑（M34）」、「柿田常吉之碑（M23）」、「贈新谷迷悟居士（M20）」、「濱之松清作碑（M32）」など。

（調査日2019年1月12日）



【70】大田市温泉津町湯里西田 水上神社（宮本 温 03/ロ-列-76） 井明府之碑

所在地 大田市温泉津町湯里西田 水上神社石段右手
 北緯35° 05' 24.95" / 東経132° 23' 41.99"



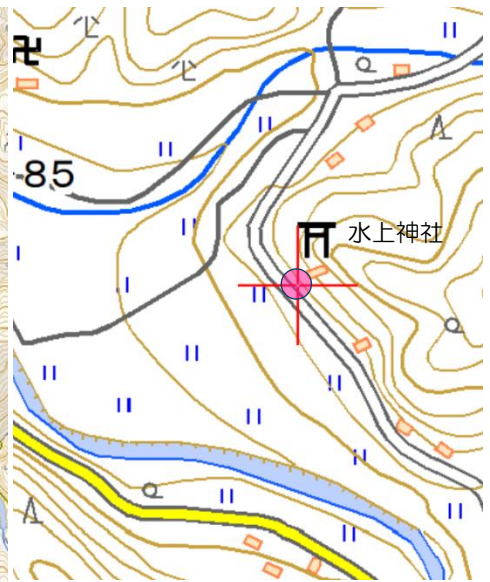
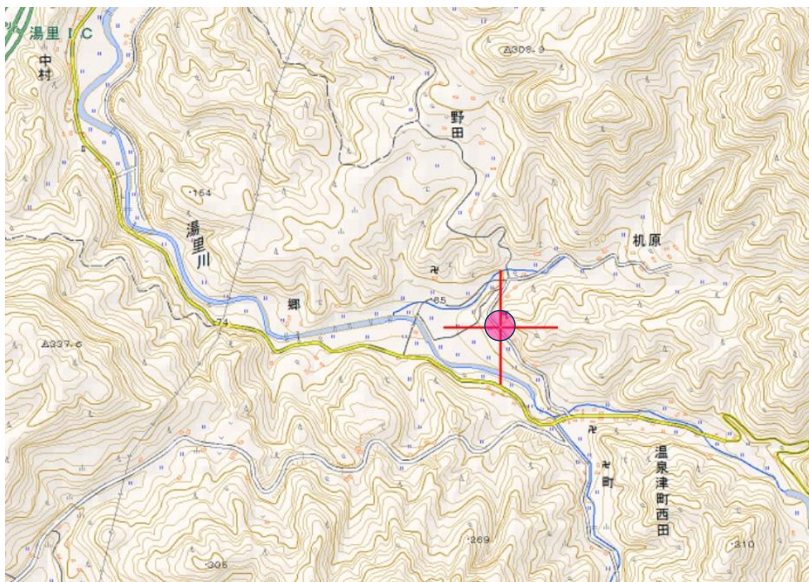
碑石幅 47 / 奥行き 32.5
 足部分最大幅 92 / 奥行き最大 76
 台石1段目幅 122 / 奥行き 97
 台石2段目幅 152 / 奥行き 123

（調査日2019年1月12日）

「調査の経過」
 福光石と思われる軟らかそうな石に井明府之碑の文字が深く彫られてる。「碑」の文字の下部部分が剥落している。碑石の背面全面ほかセメントで補強されている。猫足にするなど格調高い（No. 49 水上町福原下の碑と酷似）。神社に上がる階段の右手に、道路から約1・5メートル高い場所に設置場所を整備して設置されており、丁重な扱いが感じられる。安政2年の「泰雲院殿石碑取立勘定帳」によると、寄付は殿居蔵座、温泉津の木津屋のほか、矢瀧谷、机原谷、上市、老原谷、下市、郷中の各組、瑞泉寺、清源寺、称名寺、願楽寺、浄林寺、水上神社から寄せられており、文字は梅保氏が揮毫し西田と福光の石工が施工、清源寺が開眼法要を営んだとの記録がある。

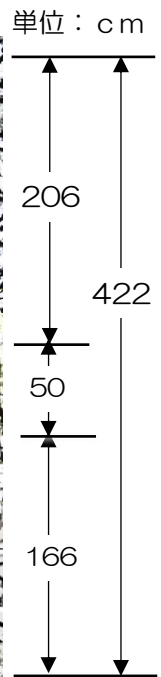
【建立年】安政2年（1855年）
 【建立者】不明
 【碑石前面】井明府之碑
 【碑石左面】安政二年龍舎乙卯七月建之
 【台石前面】なし
 【二・三段目台石】なし。

【調査の経過】
 福光石と思われる軟らかそうな石に井明府之碑の文字が深く彫られてる。「碑」の文字の下部部分が剥落している。碑石の背面全面ほかセメントで補強されている。猫足にするなど格調高い（No. 49 水上町福原下の碑と酷似）。神社に上がる階段の右手に、道路から約1・5メートル高い場所に設置場所を整備して設置されており、丁重な扱いが感じられる。安政2年の「泰雲院殿石碑取立勘定帳」によると、寄付は殿居蔵座、温泉津の木津屋のほか、矢瀧谷、机原谷、上市、老原谷、下市、郷中の各組、瑞泉寺、清源寺、称名寺、願楽寺、浄林寺、水上神社から寄せられており、文字は梅保氏が揮毫し西田と福光の石工が施工、清源寺が開眼法要を営んだとの記録がある。



【71】大田市温泉津町小浜 巖島神社 (宮本 温 07/ロータリー80) 正朋井戸君碑

所在地 大田市温泉津町小浜 巖島神社拝殿の一段下の境内
 北緯35° 05' 32.92" / 東経132° 20' 56.75"



碑石 最大幅 65 / 奥行き最大 60
 台石1段目 最大幅 114 / 奥行き最大 166
 台石2段目 (石組) 最大幅 250 / 奥行き最大 280

(調査日 2020年 11月 20日)

【建立年】明治44年 (1911)
 【建立者】小濱中

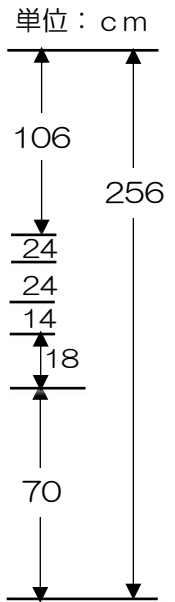
【碑石前面】正朋井戸君碑
 【碑石右面】明治四十四年二月建
 之 小濱中 / 建設委員 / 寺本寛
 三郎 / 油谷登三郎 / 藤井啓太郎
 【碑石裏面】石工 / 坪内亀一
 【台石】なし

【調査の経過】
 JR温泉津駅から西へ約200
 ㊦のところにある巖島神社。拝
 殿から階段を下りた下の段の境
 内の右側に立っている。碑石は
 206㊦もある大きなもので傷
 みもない。それが166㊦もあ
 る立派な石組の上に乗っている
 ので見上げるほど大きい。総高
 さ422㊦は大田市で最大。1
 段目の台石は海石か。「正朋井戸
 君碑」の表記は、明治16年に温
 泉上町に再建された井戸公碑と
 同じだが、こちらは「正朋」と読
 める。



【72】大田市温泉津町日祖 大元神社 (宮本なし/平列-95) **井戸平左衛門君之碑**

所在地 大田市温泉津町日祖 大元神社境内
 北緯35°06'12.04" / 東経132°21'09.55"



碑石 幅 37 / 奥行き 25
 台石1段目 幅 59 / 奥行き 48
 台石2段目 幅 76 / 奥行き 63
 台石3段目 幅 110 / 奥行き 96
 台石4段目 幅 150 / 奥行き 181
 台石5段目 (石組) 最大幅 205 / 奥行最大 215

(調査日 2020年11月11日)

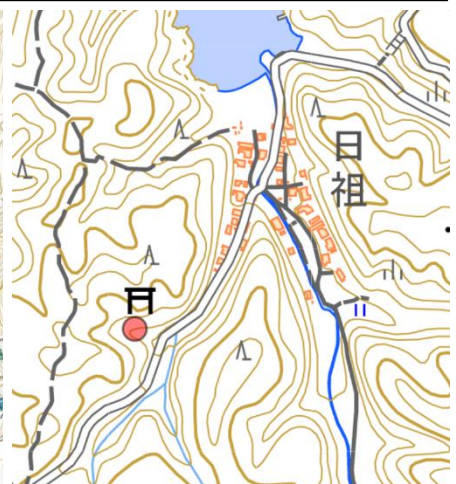
えようとされたかのようだ。
 の遺徳を将来に向けて正確に伝
 の碑文も記されており、井戸公
 摩町大國とこの碑だけだ。長文
 が刻まれているのは市内では仁
 「井戸平左衛門」とフルネーム
 あるが、まだ文字は読める。

「調査の経過」
 宮本調査にはなく、ロータリー
 調査で新たに確認された。大元
 神社に現在社殿はなく、鳥居と
 「宮址の碑」が残っている。その
 「宮址の碑」の後ろに井戸公碑
 が立ち、その右隣に小祠がある。
 台石を5段も積み、最下段は石
 を2段に組み上げたていねいな
 碑。碑石の左右面、後面に長文の
 碑文が残っている(次葉に掲
 載)。碑石は福光石で少し傷みも

「二段目台石前面」日祖中

「碑石前面」井戸平左衛門君之碑
 「碑石左右・後面」次葉に記載
 「碑石右面」建設委員/友村常三
 郎/石田喜三郎/石田傳一/石
 田與吉/松原榮作/安江久太郎
 /加藤與三郎/友村善太郎/工
 事擔任者/森田虎市

【建立年】大正3年(1914)
 【建立者】日祖中



碑文 (碑石左面)

君諱ハ正明享保十六年九月二日石見代官ニ補セラレ十
 三日大森ニ着任シ石見備中備後三國ノ幕領ヲ支配ス當
 時比年稔ラス大森銀山料地ハ荒涼ヲ極メタルヲ以テ賑
 恤救荒ハ大ニ力ヲ致シタルトコロナレハ凍餓流亡者ヲ
 生セス殊ニ中國に於ケル今日ノ甘藷ハ君カ鹿兒島ヨリ

碑文 (碑石後面)

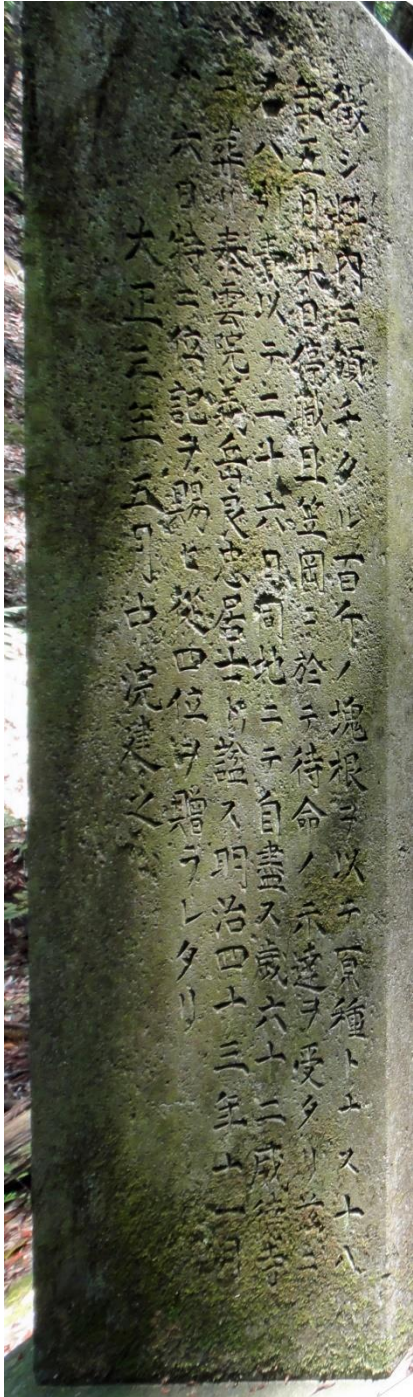
徵シ料内ニ頒チタル百斤ノ塊根ヲ以テ原種トナス十八
 年五月某日停職且笠岡ニ於テ待命ノ示達ヲ受タリ茲ニ
 君ハ引責以テ二十六日同地ニテ自盡ス歳六十二威徳寺
 ニ葬リ泰雲院義岳良忠居士ト諡ス明治四十三年十一月
 十六日特ニ位記ヲ賜ヒ從四位ヲ贈ラレタリ

大正三年五月中浣建之

碑石左面



碑石後面

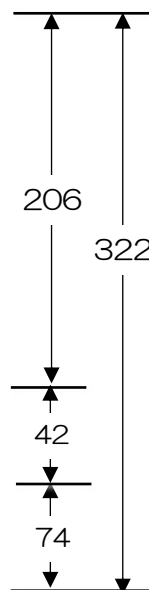


【73】大田市温泉津町温泉上町 (宮本 温 08/ロ-列-77) **正明井戸君碑**

所在地 大田市温泉津町温泉街温泉上町 町営バス温泉津上町バス停前の交差点
 北緯 35° 05' 48. 27" / 東経 132° 21' 04. 90"



単位：cm



碑石 最大幅 70 / 奥行き最大 46
 台石 1 段目 最大幅 150 / 奥行き最大 96
 台石 2 段目 (ソクリト) 幅 138 / 奥行き 130

(調査日 2020年 11月 20日)

「調査の経過」
 温泉津温泉の温泉街を海岸側から進むと、町並みが終わる付近の交差点の山側を整備して、地藏と井戸公碑が立っている。約 1・5 坪の高さにブロックを積んで広場を作り、階段で上がるようになっていたため、道路から見ると見上げる形になる。「正明井戸君碑」の文字は知恩院の高僧、養鷗徹定(うがいてつじょう)の揮毫。碑石に苔はあるが傷みはない。

「調査の経過」
 温泉津温泉の温泉街を海岸側から進むと、町並みが終わる付近の交差点の山側を整備して、地藏と井戸公碑が立っている。約 1・5 坪の高さにブロックを積んで広場を作り、階段で上がるようになっていたため、道路から見ると見上げる形になる。「正明井戸君碑」の文字は知恩院の高僧、養鷗徹定(うがいてつじょう)の揮毫。碑石に苔はあるが傷みはない。

「調査の経過」

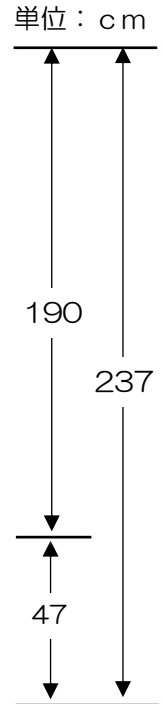
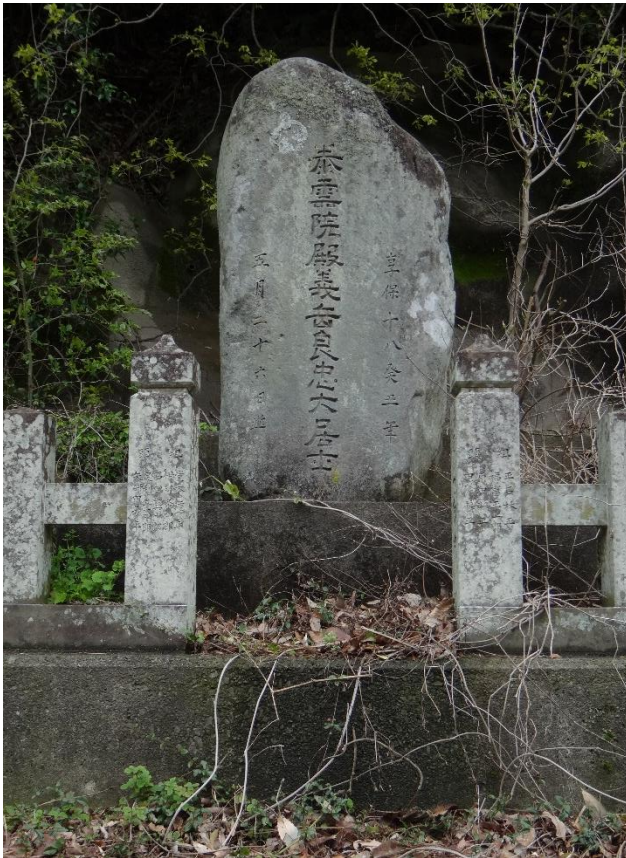
「建立年」明治 16 年 (1883)
 「建立者」不明
 「碑石前面」正明井戸君碑 左に「大教正華頂山松翁」(印)
 「碑石右面」明治十六癸未年五月再建之／福光石工 坪内和七

「建立年」明治 16 年 (1883)
 「建立者」不明



所在地 大田市温泉津町上村 市道福光西田線沿い

北緯 35° 04' 26.71" / 東経 132° 21' 30.23" (国土地理院地図)



碑石 最大幅 101 / 奥行き最大 84
台石 幅 182 / 奥行 1173

(調査日 2020年4月20日)

規程などが大きく、情報量も非常に多い。石碑、広場のめぐらされている。石碑、広場の規模などが大きく、情報量も非常に多い。

〔調査の経過〕

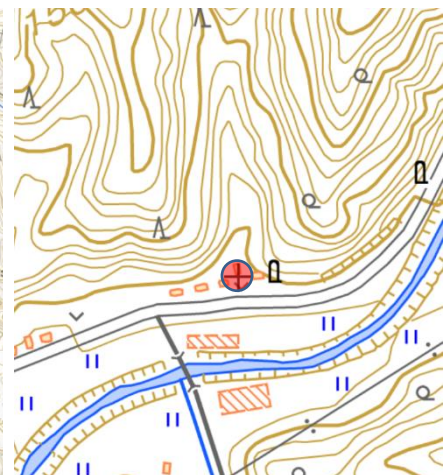
宮本氏の調査では市役所温泉津支所近くの大賀モータースから上村に向かう道沿いにあるとのことだったがなかったため、温泉津公民館の友村館長に場所を教えていただき現地に。出かけた。同線の改良工事に伴って移転されたようだ。石碑広場のよいうな広い場所に「幽蘭女史松尾米子之碑」「故林崎政子先生追慕碑」の2碑、巨大な石灯籠が並び、井戸公碑には立派な玉垣がめぐらされている。石碑、広場の規模などが大きく、情報量も非常に多い。

〔建立年〕嘉永7年(1854)
〔建立者〕當上村中

〔碑石前面〕泰雲院殿義岳良忠大居士 / 右に「享保十八癸丑年」左に「五月二十六日逝」

〔碑石左面〕井戸明鑑之鴻恩ヲ謝シテ時 / 嘉永七年寅四月建碑之 / 発起者 / 庄屋木島市郎兵衛 / 見習木島栄三郎 / 頭百姓木島吉郎兵衛 / 伊勢七郎平衛 / 見習伊勢助一郎

〔碑石裏面〕爰二明治廿四年第四月補工事主唱者 / 木島清之助
〔玉垣記載文字〕次葉に記載。





石碑広場全体



玉垣左側



広場全体（右側から）



玉垣右側

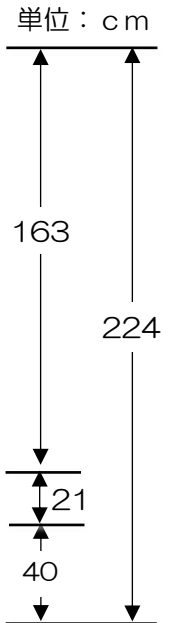
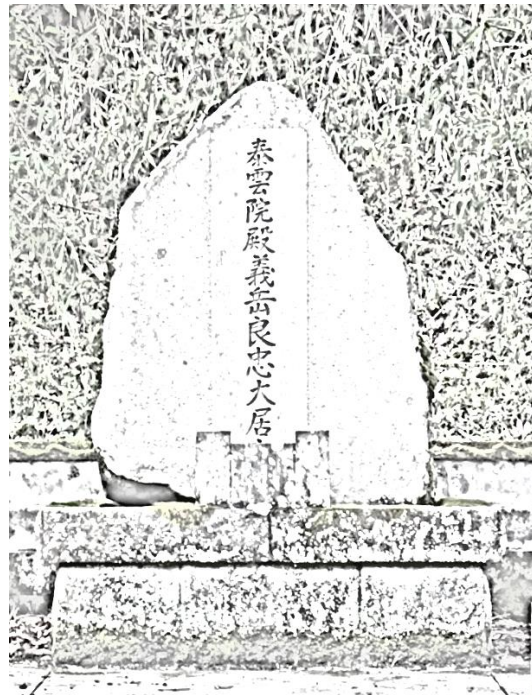
〔玉垣右側〕

當上村中／組頭／平石林平／福富平一郎／原田新平／田儀藤平
盡力者／組頭／松尾佐平太／田儀良平／田儀健助／木島豊兵衛
福光西田線道路改良工事二伴ヒ井戸公碑外移転修復工事 昭和六十三年十二月竣了ス／施主兼修復代表石田豊秋／上村東区長 田中正男／上村西区長 平石秀敏

〔玉垣左側〕

初工ヲ起シタル際細文字彫刻玉垣等ノ工事ヲ終サルヲ以愛ニ明治廿四年四月再工竣了ス
組頭／堂本種平／伊勢彖四郎／石田眞十郎／足利臺四郎／矢研田芳平
再工世話人／坪内與吉／花田源次／大畑玉次郎／山口源市
石工／坪内利平／坪内善八／重田岡平／重田惣七
再工石工／坪内利市／坪内和市

所在地 大田市温泉津町飯原 市道福光西田線沿い
 北緯 35° 05' 05.63" / 東経 132° 22' 45.39"



碑石 最大幅 130 / 奥行き最大 48
 台石 1 段目 幅 174 / 奥行 112
 台石 2 段目 幅 165 / 奥行 100

(調査日 2020年4月20日)

と興味深い。
 上村の井戸公碑と比較してみる
 派に再建された。
 做うように道路工事に伴って立

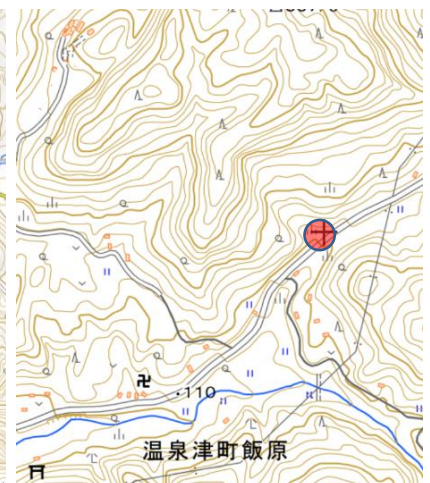
〔調査の経過〕
 上村の石碑から福光西田線を西
 田方面に向かうと左側、道路か
 ら1段高い場所に3段の石段が
 あり、周囲をブロック塀で囲ん
 だ中にこの石碑だけがある。立
 派なしつらいだ。道路工事が上
 村が先に進んだようで、上村に

飯原地区中
 「周囲のブロック塀の石碑裏」施
 工 青笹組 / 石工 おぎや石材
 中祖勉 / 協力 木山組 / 世話人
 / 代表 田中清秋 / 重田明 / 青
 笹元

たものである / 平成八年六月 /
 「台石」なし
 「碑石左右・裏面」なし
 「周囲のブロック塀前」この井戸
 公碑は約百メートル西寄りの森
 ケ段地内にあつたものを福光西
 田線工事にもない移転再建し

居士
 「碑石前面」泰雲院殿義岳良忠大
 居士

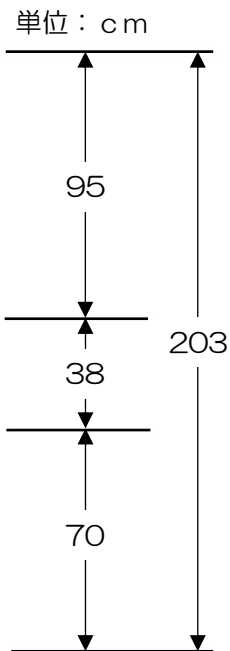
【建立年】平成8年(1996)再
 建
 【建立者】飯原地区中



【76】大田市温泉津町福光 浄光寺 (宮本なし/ロー列-98) 井戸公之碑

所在地 大田市温泉津町福光市 浄光寺墓地入口

北緯35°04'14.86" / 東経132°20'48.66" (国土地理院地図)



碑石最大幅 80 / 奥行最大 36
 台石1段目 最大幅 120 / 奥行最大 78
 台石2段目(ブロック)幅 183 / 奥行 146

(調査日2015年5月5日)

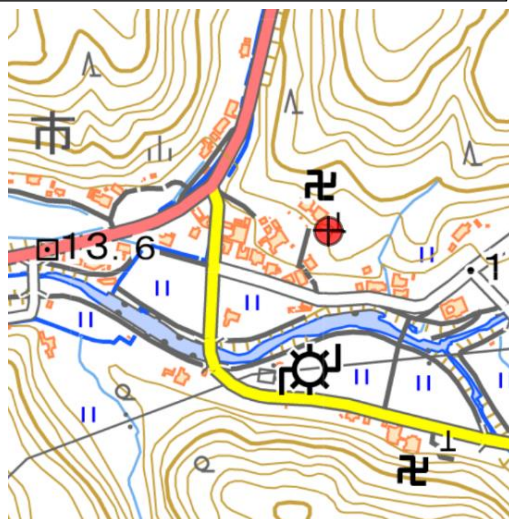
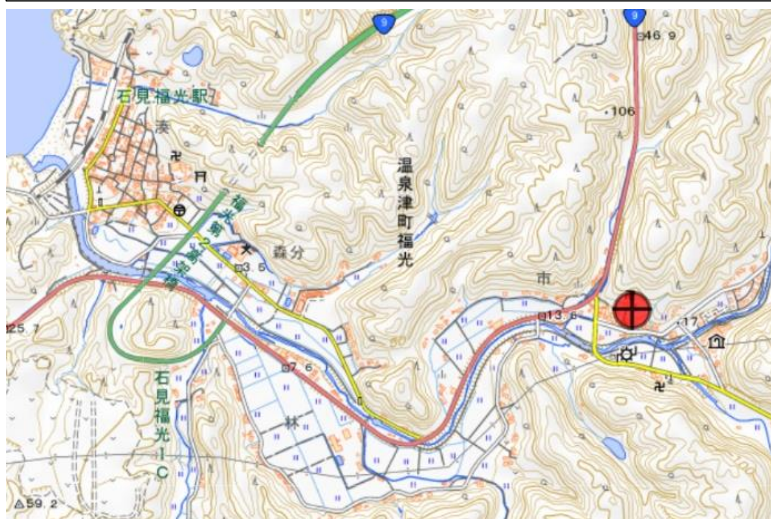
浄光寺本堂の向かって右手に広がる墓地の入り口にある。3段の石組の上に自然石の台石を乗せ、碑石は御影石の前面だけを磨いたもの。昭和59年建立と新しいので、「井戸公之碑」の文字も近代的だ。「滑正」は協賛者とは別の場所に彫られている。石工の名か。

〔調査の経過〕

滑正
トミヨ

2013年の大田市文化協会の井戸公特別展の際に、温泉津町福光の元大田三中校長の福富隆美さんからここにあることを教えていただいた。

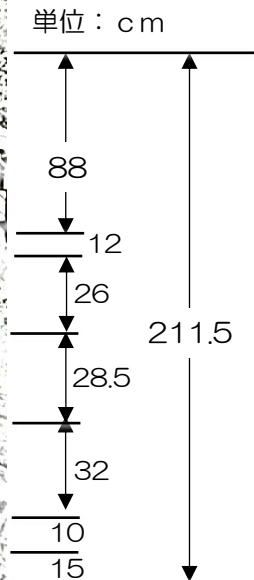
- 〔建立年〕昭和59年(1984)再建
- 〔建立者〕地区内有志
- 〔碑石前面〕井戸公之碑
- 〔碑石裏面〕昭和五十九年秋再建
- ／当山第三十二世／信誉正行代
- 〔台石裏面〕発起人／坪内嘉雄／本田松代／協賛者／大道正信／坪内敬夫／札場実三／坪内善作／坪内良／長畑義徳／田儀善一／平野清市／木村アキヨ／福富トミヨ



【77】 大田市温泉津町福光林 西田氏宅裏 (宮本なし/口-列-99) 井明府之…

所在地 大田市温泉津町福光林 西田義夫氏宅裏

北緯35° 04' 14.86" / 東経132° 20' 48.66" (国土地理院地図)

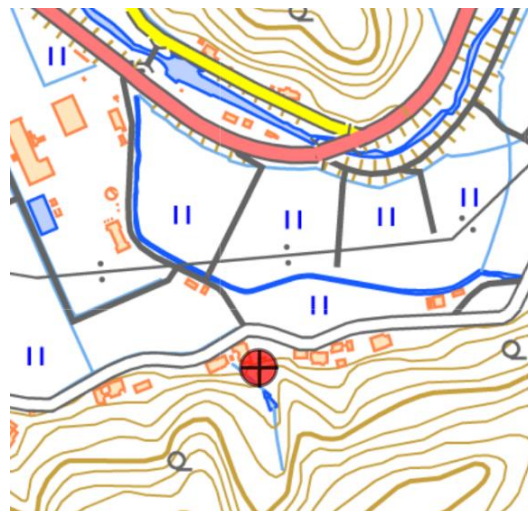


- 碑石 幅 35 奥行 28
- 台石1段目 幅 46 / 奥行 38
- 台石2段目 幅 52 / 奥行 55
- 台石3段目 幅 76 / 奥行 78
- 台石4段目 幅 107 / 奥行 105
- 台石5段目 幅 142 / 奥行 142

〔調査の経過〕
 2013年の特別展のときに温泉津町福光の福富隆美さんが小野兼雄氏宅前にあることを教えてくれた。その石碑は井戸公碑ではないようだったが、2015年5月5日に採寸に訪れたとき、家主の西田義夫さんが新しい家を建てて前日に大阪府からUIターン(夫がIターン)したばかりだった。西田さんに話を聞くと、家の前の碑は家を貸していた小野さんが裏山から持ち込んだもので、何の碑か不明とのこと。家の裏の楞厳寺の末寺龍泉寺の境内跡地に別の碑があるが、と紹介されたのがこの碑だった。碑銘以外には何の刻字もないので、建立者、年代は不明。福光石製で一部剥離している。

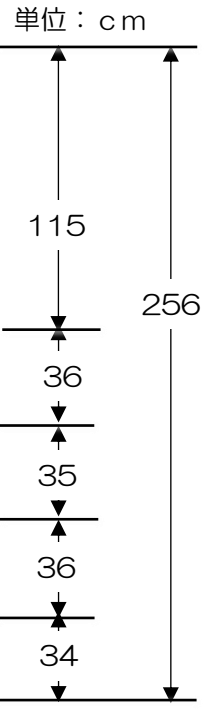
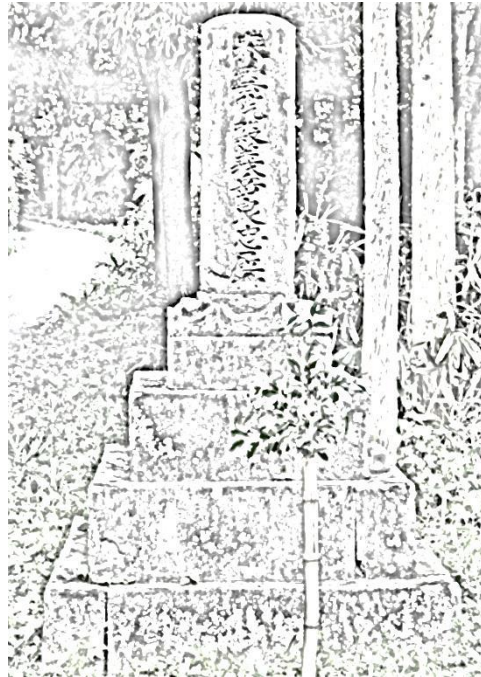
〔調査日 2015年5月5日〕

【建立年】不明
 【建立者】不明
 【碑石前面】井明府之…
 【碑石側・裏面】記載なし
 【台石】記載なし



【78】大田市温泉津町福光白谷 市道三差路 (宮本なし/碑-100) 泰雲院殿義岳良忠居士

所在地 大田市温泉津町福光 白谷 市道白谷線と同白谷取付線の交差点 (県道 32 から約 100m)
 北緯 35° 03' 14.48" / 東経 132° 20' 49.16"

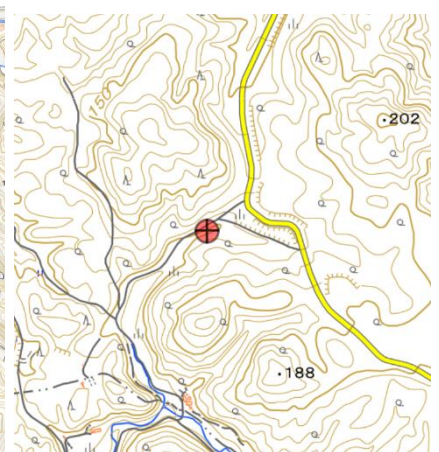
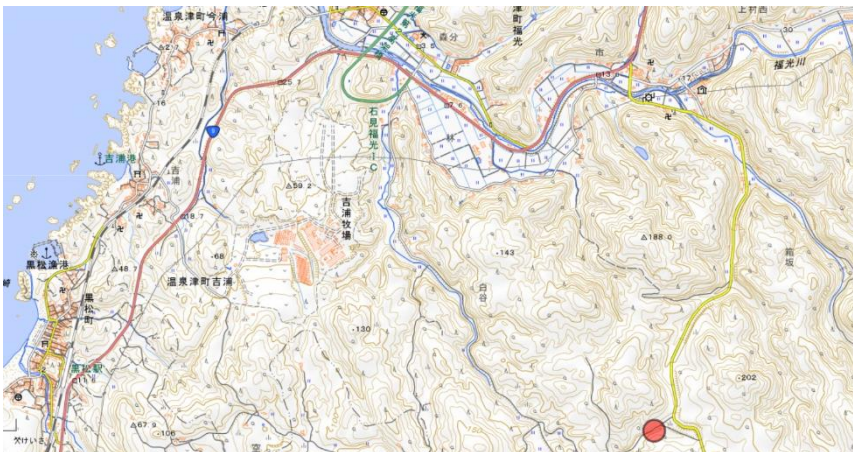


碑石 幅 37.5 奥行 39.5
 台石 1 段目 65 / 奥行 67
 台石 2 段目 96 / 奥行 93
 台石 3 段目 126 / 奥行 125
 台石 4 段目 156 / 奥行 155

(調査日 2013年9月14日)

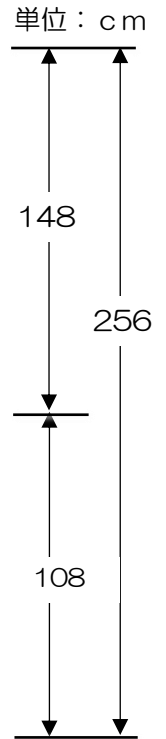
〔調査の経過〕
 2013年の特別展のときに温泉津町福光の福富隆美さんがここにあることを教えてくれた。碑文を読むと井戸公没後50年を記念して建てたとあるが、没後50年は1783年であり、1868年は135年後に当たるので、再建かもしれない。市道の三差路が平らに整地され、4段の台石を積み端正な碑だが、福光石のため剥離が始まっており、最初の調査日以降、訪ねるたびに文字が読めなくなっている。

〔建立年〕慶応4年(1868)
 〔建立者〕上組中
 〔碑石前面〕泰雲院殿義岳良忠居士
 〔碑石右面〕享保十八癸丑年/五月廿六日
 〔碑石左面〕井戸君平左衛門諱正明 / 原卒去後五拾回當福光中依 / 恩澤百姓始建是本願今茲慶 / 應四戊辰三月上組新建立之
 〔二段目台石前面〕上組中



【79】大田市温泉津町福光 福光八幡宮 (宮本 温 00/□-列-91) 井戸神社

所在地 大田市温泉津町福光 福光八幡宮 拝殿左手
 北緯 35° 04' 28.23" / 東経 132° 19' 54.01"



祠 最大幅 125 / 奥行き最大 115
 台石 (石組) 最大幅 141 / 奥行最大 135

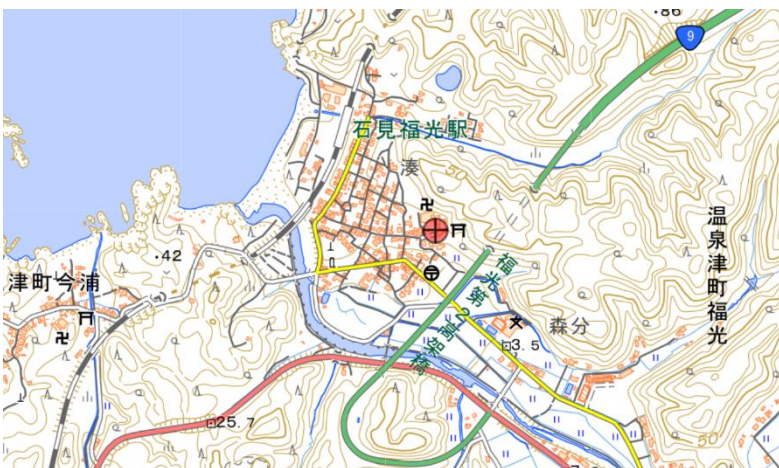
〔調査の経過〕
 福光八幡宮の拝殿に向かって左側に2つの祠があり、その左側。「井戸神社」と書いてあると思われるが、現在は「井」だけがはっきり読み取れる。神社の案内板に境内社として「井戸神社」の文字がある。

〔建立年〕不明
 〔建立者〕不明

〔祠前面〕井□□□ (井戸神社)

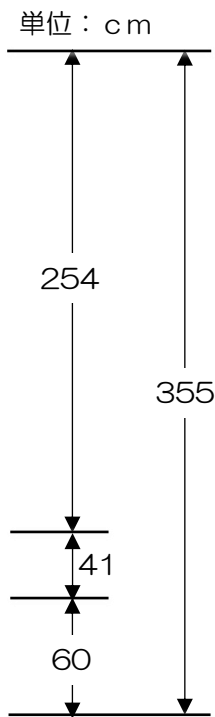
石村勝郎氏の「いも神さま 井戸平左衛門 石見銀山代官」には、「明治時代に郡長が戸長(村長)を集めて、『小地区内ごとに井戸神社を祭るように』と指示があった」と書かれており、それを受けて、福光八幡宮や太田八幡宮などに井戸神社があるのだろうか。

(調査日 2020年11月11日)
 (写真 2011年2月10日)



【80】大田市温泉津町福光湊西 (宮本 温 09/ロ-列-93) 井戸公頌徳碑

所在地 大田市温泉津町福光湊西 県道203号沿い
 北緯35°04'41.80" / 東経132°19'73.60"

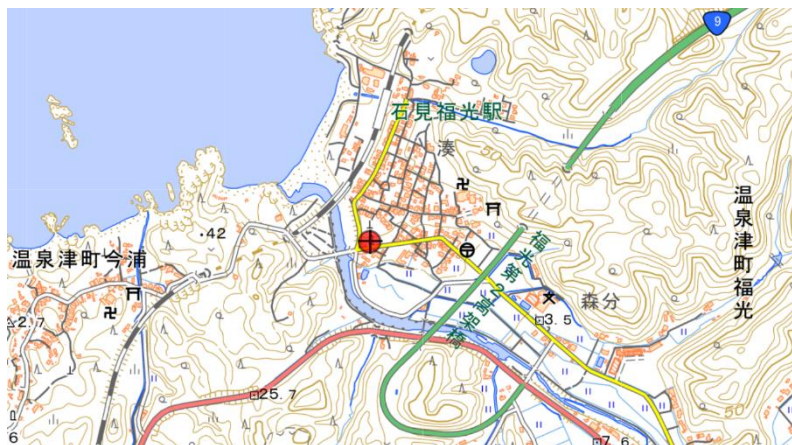


碑石 最大幅 81 奥行最大 48
 台石1 段目幅 134 / 奥行 55
 台石2 段目 (石組) 幅 151 / 奥行 117

(調査日 2020年4月22日)

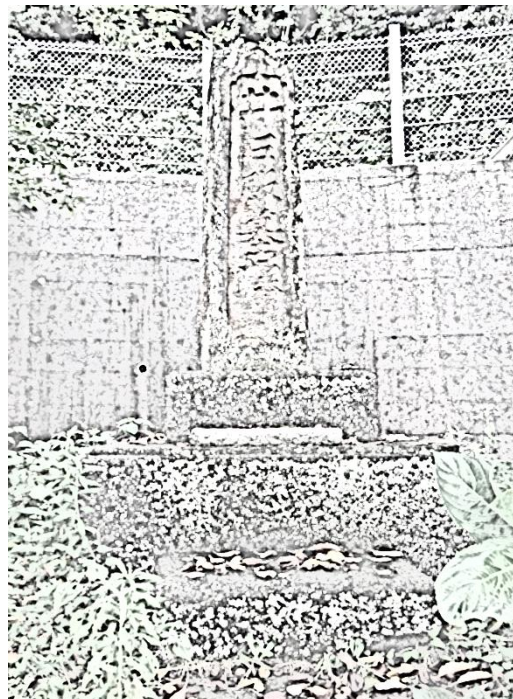
【建立年】昭和26年(1951)
 【建立者】不明
 【碑石前面】井戸公頌徳碑
 【碑石裏面】昭和二十六年十月建之

〔調査の経過〕
 福光の中心街の家並みの外れ、県道203号沿い北側に、民家と並んで公園のようにしつらえ、数段の階段を上がって行くようになっている。碑石は254センチ、最大幅81センチもある御影石風の艶のある堅い自然石。碑石だけの大きさでは大田市で最大のもの。自然石の台石1段目の下にはきちんと石を組んだ2段の石組がある、とても立派な碑だ。総高さは355センチもある。ただ、建立年はあるものの(再建か?) 建立者の名などが彫ってなく情報が少ないのが残念だ。

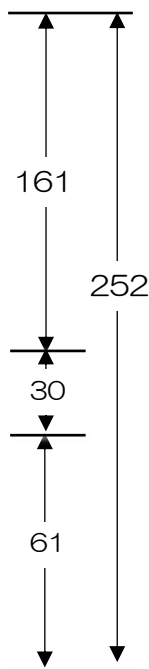


【81】大田市温泉津町福光釜野 (宮本 温 10/ロ-列-94) 井戸殿墓口

所在地 大田市温泉津町福波 市道沿い
 北緯 35° 04' 46.42" / 東経 132° 19' 43.98"



単位：cm

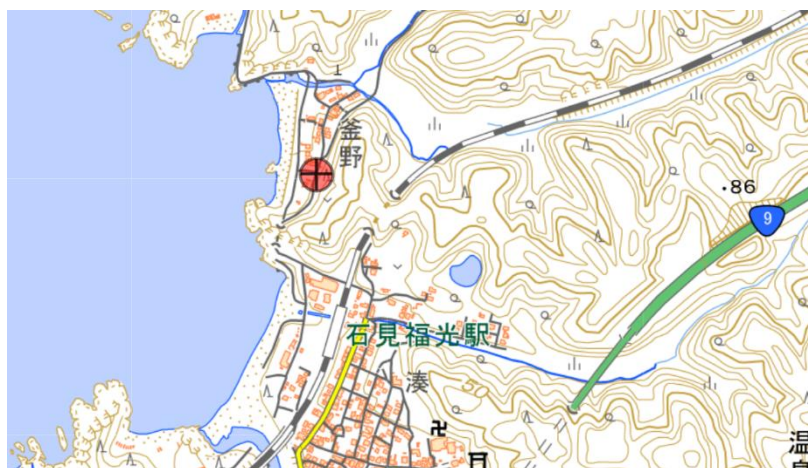


碑石 最大幅 43 / 奥行き最大 40
 台石1段目幅 87 / 奥行 87
 台石2段目幅 147 / 奥行 147

〔調査の経過〕
 碑は道路わきの地藏堂の横の10段の石段を上がっていく場所に、この石碑を設置するために設けられたと思われる場所に建っている。碑の左右に桜の木が1本ずつ植えられている。近くに鉄道のトンネル工事をする際に、擁壁をしてここに移動したか、碑の前の道路工事の際に移動してきたのかもしれない。石段と擁壁に囲まれているが、木々にも覆われていて、割と湿気の多そうな場所。碑石は自然石だが比較的軟らかく、「井戸殿墓」の下の文字が瘦せて読めない。台石はていねいなもので1段目の前と、2段目の前に石板が置かれている。
 すぐ近く(南側)に松浦屋与兵衛の説明板がある。

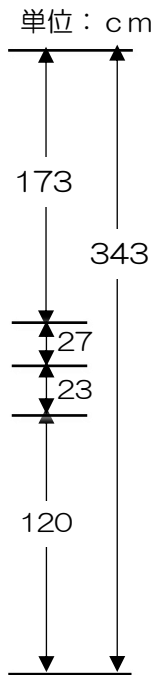
〔建立年〕不明
 〔建立者〕不明
 〔碑石前面〕井戸殿墓口(「塔」か?)

(調査日 2020年11月11日)



【82】大田市温泉津町今浦 (宮本 温 11/ロ-列-90) 井戸公頌徳碑

所在地 大田市温泉津町今浦 県道203号沿い
 北緯35°04'11.32" / 東経132°19'08.77"



碑石最大幅 60 / 奥行き最大 38
 1 段目台石最大幅 119 / 奥行き最大 67
 2 段目台石幅 139 / 奥行 95
 3 段目台石 (ジョイント) 最大幅 224 / 奥行最大 173

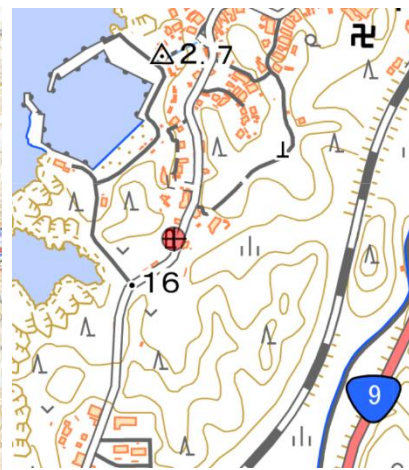
(調査日 2020年11月11日)

近所の方に聞くと、旧碑が折れたため再建したと言ひ、盆前には草刈りと掃除をしているという。碑の後ろに旧碑が寝かされておひ「井戸平左衛門尉」などの文字が読める

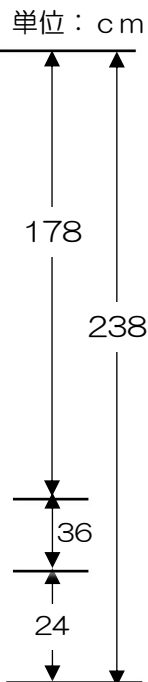
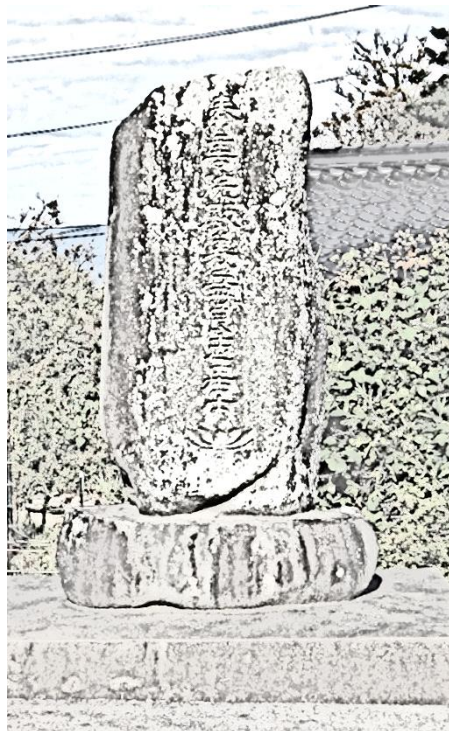
〔調査の経過〕
 福波まちづくりセンターから吉浦に向かう海岸通り、県道203号の道路沿いにある。石段を6段上がった場所に広場を整備し、忠魂碑と並んで建っている。ブロック製の玉垣もあり、道路から積んだ石の一部に「福光村石工／坪内平作」とある。碑は昭和45年建立と新しく、しっかりと造りに見える。3段目の台石はコンクリート製だと思われるが、いかにも石を積んだようないないな造り。1段目の台石も海岸部らしく海石が使われている。

〔調査の経過〕

〔建立年〕昭和45年(1970)再建
 〔建立者〕今浦浦会
 〔碑石前面〕井戸公頌徳碑
 〔碑石裏面〕昭和四十五年五月二十六日再建／今浦浦会



所在地 大田市温泉津町吉浦 敬願寺前県道203号海側
 北緯35°03'50.41" / 東経132°18'57.55"



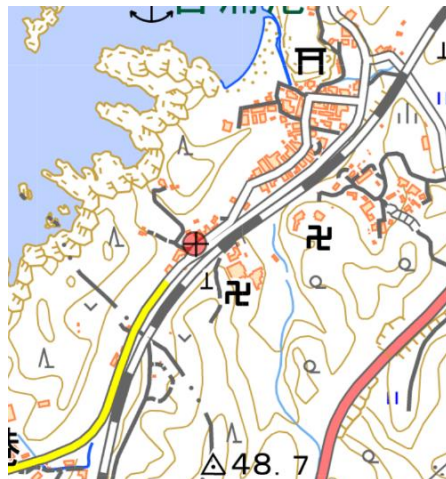
碑石最大幅 90 / 奥行き最大 32
 台石1段目最大幅 134 / 奥行最大 64
 台石2段目(ジョット)最大幅 197 / 奥行最大 158

(調査日 2020年11月11日)

がうかがえる。
 井戸公に対する思いが強いこと
 立っており、地域の皆さんの
 今浦、湊西と3基の碑が続い
 碑の前の県道203号の延長に
 全く彫られていないのが残念。
 が、建立者、建立年などの情報
 もあしらった堂々とした碑だ
 文字が彫られ、その下に蓮の花
 た自然石に隷書で「泰雲院」の
 公碑ということだ。どっしりとし
 っているという。どっしりとし
 る。以前地元の方に聞いたとこ
 ろによると、この碑は正確には
 江津市内に立っているが、井戸
 公碑ということだ。どっしりとし
 っているという。どっしりとし

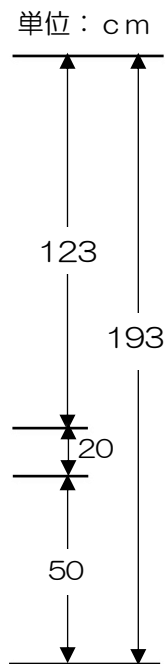
〔調査の経過〕
 吉浦の敬願寺の前にJRの線路
 がありその前の県道203号の
 海側に立つ。大田市最西端の碑。
 神社の神輿が休憩する「御幸所」
 として整備されたコンクリート
 の広場にこの碑だけが立ってい
 る。以前地元の方に聞いたとこ
 ろによると、この碑は正確には
 江津市内に立っているが、井戸
 公碑ということだ。どっしりとし
 っているという。どっしりとし

〔建立年〕 不明
 〔建立者〕 不明
 〔碑石前面〕 泰雲院殿義岳良忠居
 士(蓮の花)
 〔その他〕 刻字なし



【84】大田市温泉津町井田元井田 (宮本 温 17/ロータリー-89) **井戸公之碑**

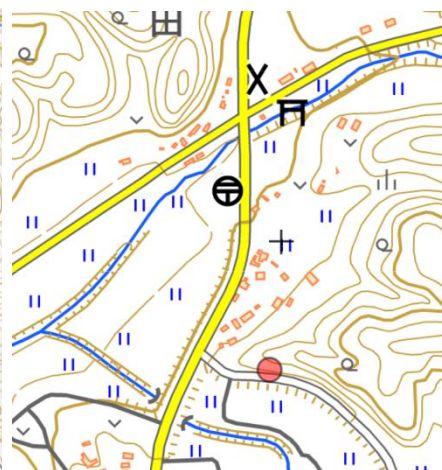
所在地 大田市温泉津町井田元井田 道路沿いの法面
 北緯 35° 02' 32.52" / 東経 132° 21' 56.73" (国土地理院)



碑石最大幅 47 / 奥行最大 44
 台石1段目 幅 75 / 奥行 65
 台石2段目 幅 125 / 奥行不明

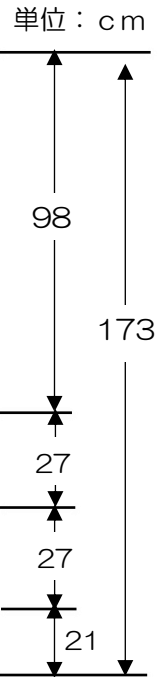
(調査日 2020年 11月 11日)

【建立年】大正15年(1926)再建
 【建立者】不明
 【碑石前面】井戸公之碑
 【碑石右面】享保十八年五月廿六日卒去
 【碑石左面】大正十五年八月再建
 【調査の経過】
 主要地方道温泉津川本線(県道32)から市道を少し入った場所。法面には崩落防止の金網が張っているが、その一部を平らに加工し、この碑だけが建っている。草に覆われてしまいそうな場所だが、いつ行っても碑の周囲だけはきれいに手入れがされている。旧碑の部分と思われる石材が碑の後ろに置いてある。碑の前には田んぼが広がっており、井戸公が農作業を見守り豊作を願っているような位置関係だ。



所在地 大田市温泉津町井田津渕 県道32号沿い（JAライスセンター下）

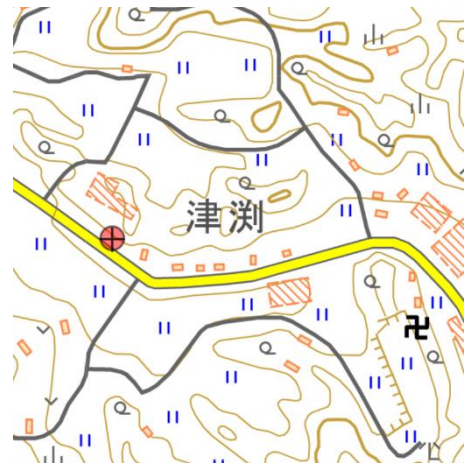
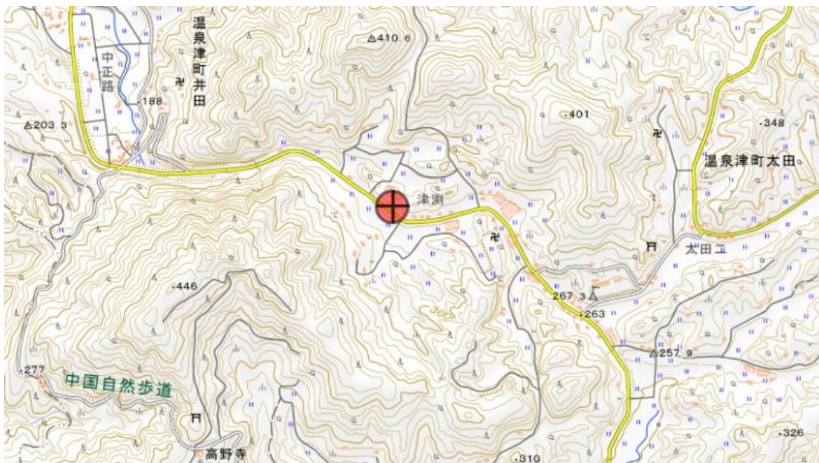
北緯35° 02' 05.43" / 東経132° 22' 38.52"



碑石幅 35 / 奥行 35
 台石1段目 幅 56 / 奥行 57
 台石2段目 幅 80 / 奥行 80
 台石2段目 幅 105 / 奥行 110

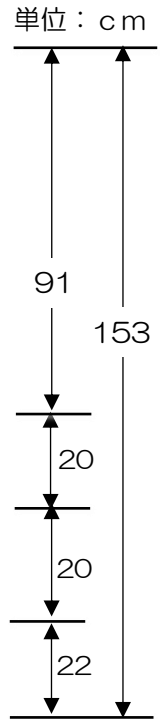
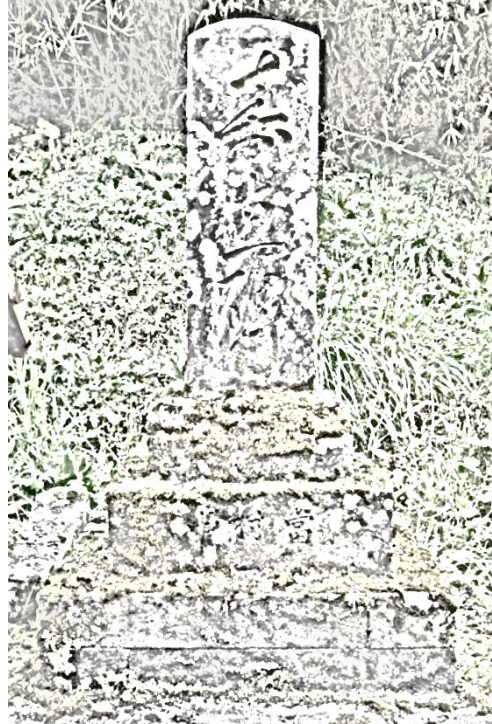
（調査日2020年11月11日）

【建立年】不明
 【建立者】當邑中
 【碑石前面】泰雲院殿義岳良忠居士
 【碑石右面】享保十八癸丑五月二十六日
 【碑石左面】井戸平左衛門正明
 【二段目台石前面】當邑中
 【二段目台石左面】世話人 / 新七 / 安平
 【調査の経過】
 主要地方道温泉津川本線（県道32）沿いの北側の高手約2メートルの場所を平らにし、この碑だけが建っている。この碑の後ろには地域の方の墓地がある。碑は福光石でかなり剥落が進んでいる。世話人の名に姓がないことから江戸時代の建立だろう。台石2段目「當邑中」の文字はかなり大きな文字で、石碑建立を実現させた当時の皆さんの意気込みが感じられる。



【86】大田市温泉津町井田井尻 高野寺下（宮本 温 20/ㄇ-列-86） 寿真碑

所在地 大田市温泉津町井田 高野寺参道階段手前の道路沿い 地藏堂横
 北緯35° 01' 30.75" / 東経132° 22' 14.60"



碑石 幅31 / 奥行30
 台石1段目 幅47 / 奥行47
 台石2段目 幅65 / 奥行61
 台石3段目 幅91 / 奥行90

〔建立年〕不明
 〔建立者〕當村中

〔碑石前面〕寿真碑
 〔碑石右面〕享保十八年 / 五月廿六日
 〔碑石左面〕井戸平左衛門正明
 〔碑石裏面〕なし

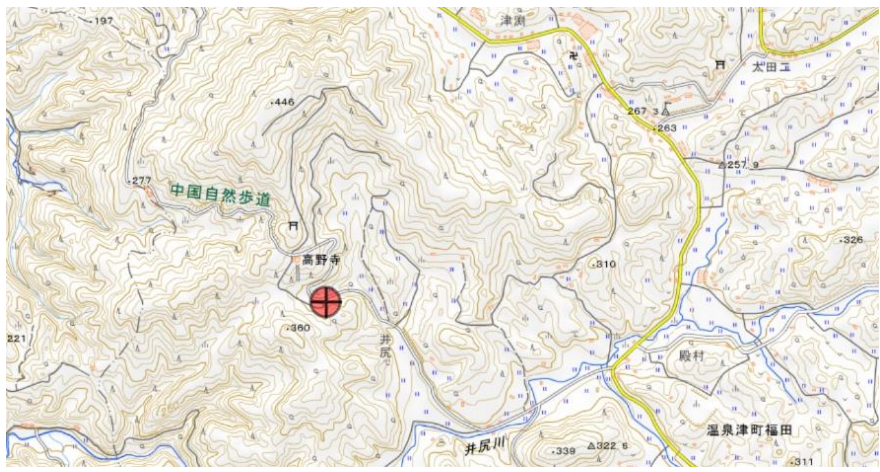
〔二段目台石前正面〕當村中
 〔二段目台石左面〕発起人 / 田仲彦太郎 / 重富繁太郎 / 石戸徳市 / 渡邊種市

〔二段目台石裏面〕金一円高野寺 / 同五十銭涅槃寺 / 同全田中庄太郎 / 同四十五銭田中久吉 / 同全渡邊綱田良 / 同全重富繁太郎 / 同四十銭石戸徳市 / 同廿六銭山中文吉 / 同廿五銭山中原吉 / 同廿三銭花田庄太良 / 同全松原房太良 / 同全森川元三良 / 同全桜木新吉 / 同全福田コト

〔二段目台石右面〕同老円三十二銭五厘三十名 / 石工 / 坪内小十郎作

〔調査の経過〕
 道路から一段高い場所に地藏堂と並んで立っている。福光石で傷みはそうないが、苔が多く、ブラシで苔を取りながら判読しているのが珍しく興味深い。

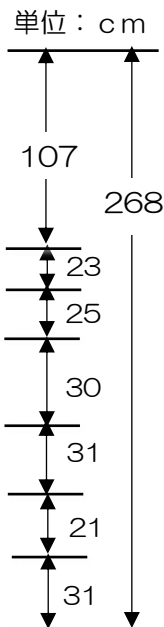
（調査日2020年4月20日）



井戸正明碑

所在地 大田市温泉津町殿村 市道沿い

北緯 35° 01' 25.53" / 東経 132° 22' 59.45"

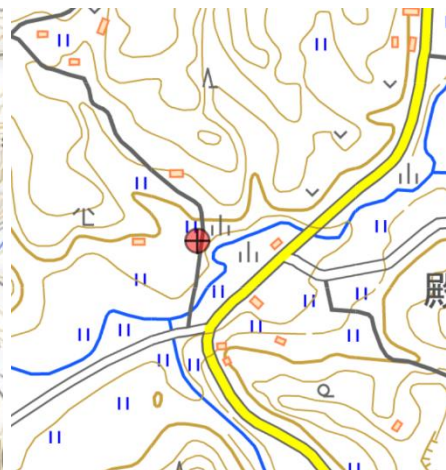


碑石幅	37	奥行き	38
台石1段目	幅 59	奥行	58
台石2段目	幅 80	奥行	80
台石3段目	幅 103	奥行	101
台石4段目	幅 137	奥行	138
台石5段目	幅 170	奥行	171
台石6段目	幅 219	奥行	220

(調査日 2020年11月11日)

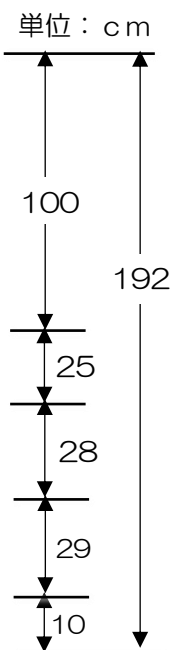
〔調査の経過〕
 主要地方道温泉津川本線（県道32）の殿村から右折して高野寺に向かう道をさらに右折してすぐの坂道沿いに地藏堂と並んで建っている。台石を6段も積んだ迫力のある碑で、殿村の皆さんの意気込みが感じられる。福光石はかなり傷みがあり、ひび割れや剥落がある。台石のゆがみも見える。碑の後ろには桜の木が1本植えられている。台石2段目と3段目に盃状穴がある。

〔建立年〕 不明
 【建立者】 元殿村中
 【碑石前面】 井戸正明碑
 【碑石右面】 享保十八年五月廿六日
 【二段目台石前面】 元殿村中
 【二段目台石左面】 □話人 / 池野善四郎 / 川村権吉 / 川平□治 / 福光石工 / 山中清七



【88】大田市温泉津町井田福田 願林寺向い (宮本 温 23/㊦-㊦-85) **嘉惠碑**

所在地 大田市温泉津町井田福田 願林寺下県道 32 号北側 地藏堂隣
 北緯 35° 00' 58.80" / 東経 132° 23' 35.17"

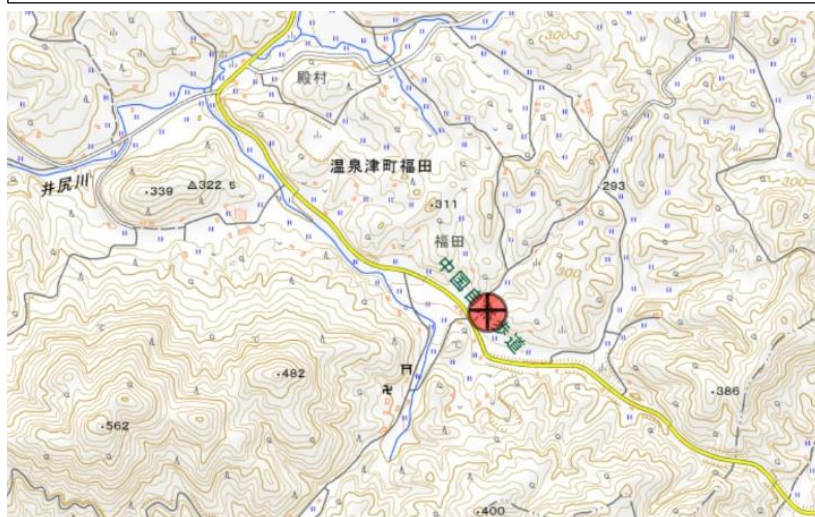


碑石 幅 33 / 奥行き 32
 台石 1 段目 幅 55 / 奥行 55
 台石 2 段目 幅 74 / 奥行 75
 台石 3 段目 幅 105 / 奥行 105
 台石 4 段目 幅 140 / 奥行 138

(調査日 2020 年 4 月 20 日)

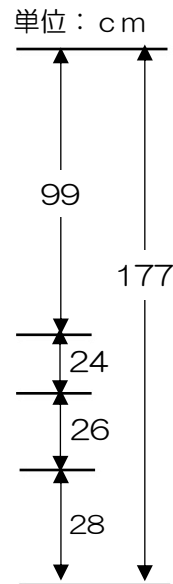
「調査の経過」
 高野寺から県道 32 号を川本方面に進み、ほとんど川本町境。石碑のたはずまいといい、3 文字の碑銘といい、高野寺下の「寿真碑」とよく似ている。ただ、寄付者の名前などの情報はない。こちらも地藏堂の横にあり、しかもどちらの地藏堂も最近改築されていることも共通している。色が黒ずんでいてわかりにくい。が福光石のような石。苔はあるがあまり傷んではいない。台石 4 段目は宮本調査では高さ 32 ㎝とあるので、後日コンクリートが巻かれたのだろう。

- 【建立年】不明
- 【建立者】當村中
- 【碑石前面】嘉惠碑
- 【碑石右面】享保十八癸丑年 / 五月二十六日
- 【碑石左面】井戸平左衛門正明
- 【台石二段目正面】當村中



【89】大田市温泉津町井田横道（宮本 温 14/㊦-㊦-87） 井明府之碑

所在地 大田市温泉津町井田横道 横道集落センターの裏の法面下
北緯 35° 01' 47.85" / 東経 132° 24' 01.77"



碑石 幅 33 / 奥行き 32
台石 1 段目 幅 55 / 奥行 55
台石 2 段目 幅 74 / 奥行 75
台石 3 段目 幅 105 / 奥行 105

【建立年】安政2年（1855）
【建立者】當村中

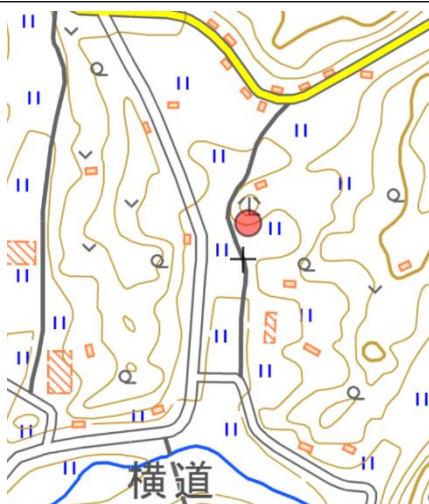
〔碑石前面〕井明府之碑
〔碑石右面〕安政二乙卯歲冬十月建之

〔碑石左面〕碑文「恭惟井戸正明君 徳性温厚而仁愛洽於洲邦合 / 民 教植蕃薯芋故從□□高論而後□ 歲植之明 / 蔓繁殖諸民共食之而 凌飢渴者居多也無嗚呼 / 正明君 之為偉□哉無□□其澤者故諸民 欽 / □無彊依而建碑以長感□其 恩徳云爾」

〔二段目台石前面〕當村中
〔同左面〕庄屋 / 平治衛門 / 頭百 姓 / 清右衛門 / 同 / 力蔵 / 世話 人 / 會蔵 / 平一郎 / 除平
〔同右面〕石工 / 平□□エ

〔調査の経過〕
横道集落センターの裏手の里道 の辻に、戦没軍人の碑、阿弥陀仏 の碑に挟まれて立つ。すぐ近く に地藏堂がある。大きな碑では ないが、建立年、建立団体名、関 係者名のほか、長文の碑文もあ り、格調高い。碑文は石が痩せて 読めない文字もある。3段目の 台石の前の部分が倒れており、 台石が周囲しかないという構造 がよくわかる。

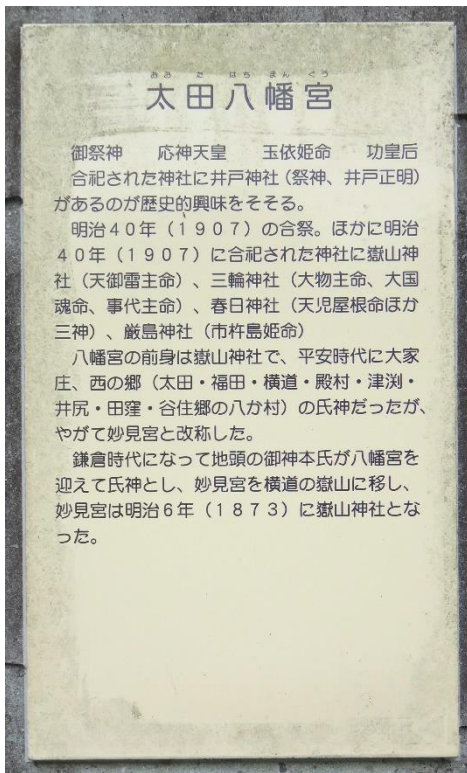
（調査日 2020年5月25日）



【90】大田市温泉津町井田太田 太田八幡宮（宮本 温 00/ロータリ- 88） 井戸神社

所在地 大田市温泉津町井田太田 太田八幡宮（合祀）

北緯 35° 01' 59.90"
東経 132° 23' 16.58"（国土地理院）



太田八幡宮（写真上）と
階段下にある、温泉津町が設置した説明板（写真左）

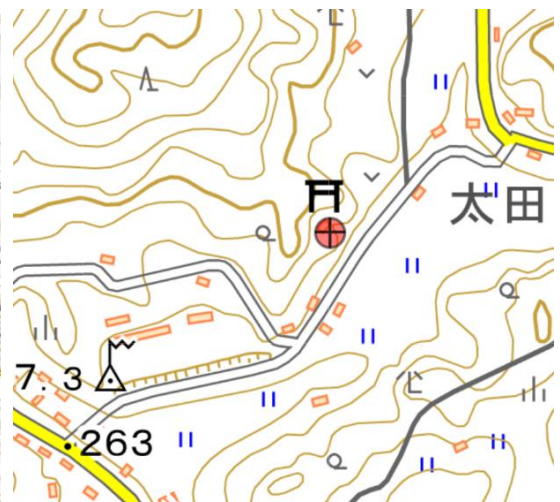
〔調査の経過〕
階段下に設置された説明板には「御祭神 応神天皇 玉依姫命 功皇后合祀された神社に井戸神社（祭神、井戸正明）があるのが歴史的興味をそそる。明治40年（1907）の合祀」とある。井戸神社の祠はない。

現在の宮司は大田市大代町の石清水八幡宮の藤田薫卿宮司が兼務しているが、途中から兼務したためか、井戸神社が合祀されていることをご存じなかった。

神社の祭事にも井戸公に関するものはないようだ、

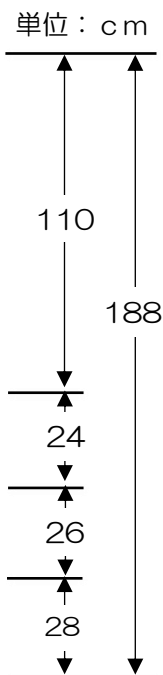
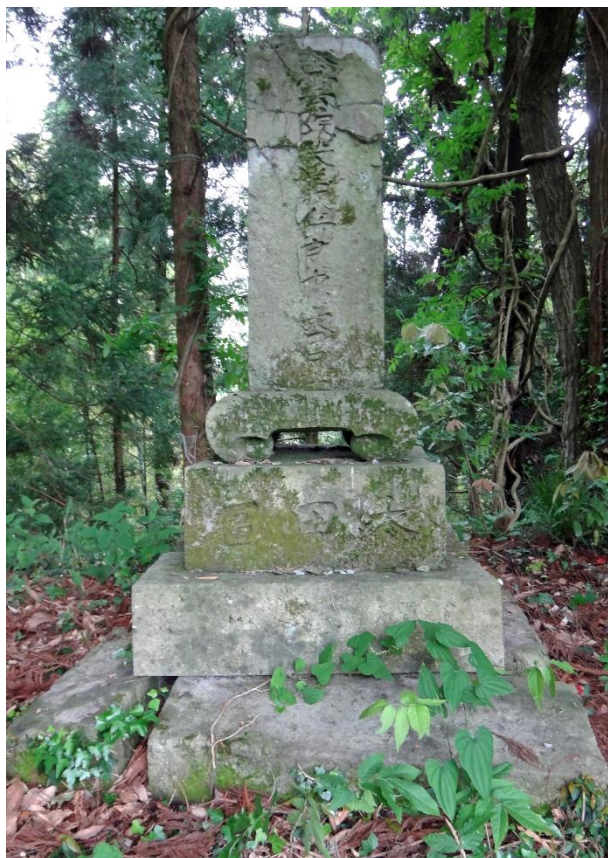
【建立年】明治40年（1907）合祀
【建立者】太田八幡宮

（調査日 2020年5月25日）



【91】大田市温泉津町井田太田 市道沿い (宮本 温 15/ロ-列-82) 泰雲院殿義岳良忠大居士

所在地 大田市温泉津町井田太田 市道沿い
 北緯35° 02' 01.90" / 東経132° 23' 37.20"



碑石 幅 34 / 奥行 28
 台石1段目 幅 60 / 奥行 61
 台石2段目 幅 79 / 奥行 79
 台石3段目 幅 108 / 奥行 120

〔調査の経過〕
 市道脇の木に囲まれた場所があり、一部剥落しているが、台石に彫られた人名ははっきり読める。世話人に苗字がないことや役人の名があるので、再建は二度目かもしれない。
 (調査日2020年5月25日)

〔建立年〕昭和5年(1930)再建
 【建立者】太田區

〔碑石前面〕泰雲院殿義岳良忠大居士
 〔碑石右面〕享保十八年五月二十六日
 〔碑石左面〕井戸平左衛門正朋
 〔碑石裏面〕昭和五年十月再建
 〔一段目台石前面〕太田區

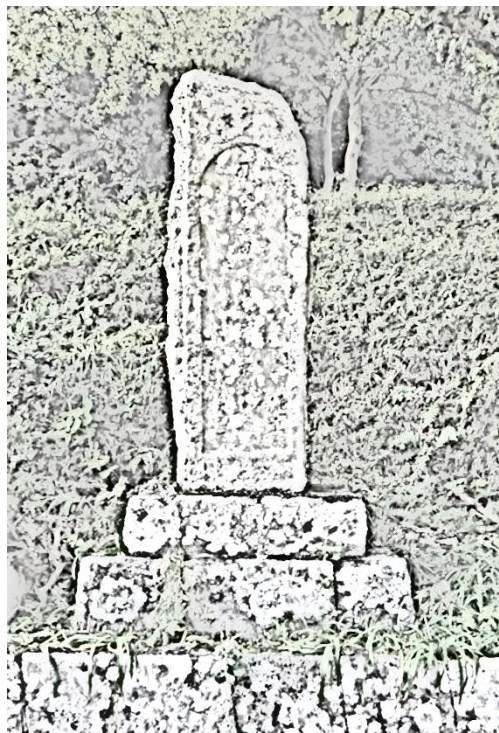
〔同左面〕再建発起者/重田為市/萩本政太郎/森田春市/寄附者芳名/イロハ順/花田辰太郎/埴阿一/長尾仟/小川真/岩倉又市/板倉円吉/花田弥吉/花田時太郎
 〔同裏面〕萩本伊吉/萩本與吉/萩本晴信/埴作市/竹崎文吉/長尾正樹/室田仁太郎/柳井流情/榎進吉/畦田善作/坂根賢/坂井政知/水黒幾太郎/澄田松市/萩本政行/重田貢/森田春市

〔同右面〕役人/新右衛門/只右衛門/勝右衛門/世話人/平助/幾七/伊之吉/再建発起者/水黒幾太郎/萩本友市/萩本安二/木村清太郎/板倉円吉



所在地 大田市温泉津町井田菰口 荻村集会所前

北緯35° 03' 40.38" / 東経132° 23' 53.81"



碑石最大幅 60 / 奥行最大 49
 台石1段目 幅 92 / 奥行 90
 台石2段目 幅 127 / 奥行 122

【建立年】不明
 【建立者】荻邑

「碑石前面」泰雲院殿義岳良忠居士（蓮の花） / 右側に「享保十八癸丑歳 / 施主」左側に「五月二十六日 / 荻邑」ほかに文字はなし

【調査の経過】

荻村集会所の前の道路沿いに石積み3段の約1畧の高さに広場を作り、他の石碑、石灯籠などが並べられたうちの中央に位置する。建立年は彫っていないが、ほかの石碑に「明治三十八年」があったり、隣にある石灯籠には「大正五年」とあるので、明治後期から大正時代にかけて建立されたのだろう。石碑は白っぽく、そう堅そうには見えない自然石だが、傷みはない。石碑そのものも大きい部類だし、飾り野や法名の下に蓮の花をあしらうなど、ていねいな造りだ。道路から約1畧の高さに並ぶ8基の石碑群はかなり存在感がある。

（調査日2020年11月11日）

